

令和 6 年 6 月 21 日現在

機関番号：32634

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19H01239

研究課題名(和文) グローバル冷戦下の米文学・文化研究 文化の相互変容プロセスの実証 / 理論的国際研究

研究課題名(英文) Studies of American Literature and Culture under Global Cold War

研究代表者

越智 博美 (Ochi, Hiromi)

専修大学・国際コミュニケーション学部・教授

研究者番号：90251727

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 9,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、冷戦を東西の二極化した政治であると捉えるのではなく、文化、およびいわゆる第三世界を巻き込んだ大きな流れとして考えるグローバル冷戦という捉え方から冷戦期文化を再興する。第二次世界大戦後のアメリカ文学・文化を、冷戦期における米国主導のグローバルな文化外交政策との関連において捉え、アーカイブ調査を通じた実証的な調査を元に、学際的かつ国際的に再考察を試みたものである。文化を軍事、政治、経済との関連から、日米などの二国間ではない、また相互に影響し合うものであることを、音楽、映像、美術、文学といった分野から、またアーカイブ調査の実施から明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、従来「米ソ」の二国間にくっきりと分けられるかのように扱われてきた「冷戦」に関して、2点を文化という点から明らかにする。1) 冷戦は単純に外交や軍事の問題ではなく、それを支えるものとして「文化」も巻き込んでいたこと。2) 冷戦は、東西の2つの陣営のあいだのみならず、欧米列強の植民地支配を受けていたアジア、アフリカ各国という「第三」の世界を巻き込んだ、言ってみれば「グローバル」な地政学的配置とともにあったせめぎ合いでもあること。

これは21世紀になって盛んになってきた方向性であり、本研究課題はそのような最新の研究動向を視野に入れ、歴史へのあらたな眼差しを世に問うものである。

研究成果の概要(英文)：This study understands Cold War culture from the perspective of the global Cold War, which considers the Cold War not as a political polarization between East (USSR) and West (USA), but as a larger trend that also involves the third world and culture. This study attempts to reconsider post-World War II American literature and culture in relation to the U.S.-led global cultural foreign policy during the Cold War, and to reconsider it from an interdisciplinary and international perspective based on empirical research conducted through archival surveys. The study has clarified that culture is not bilateral, such as Japan and the U.S., in relation to the military, politics, and economy, and that it influences each other, through the fields of music, film, art, and literature, as well as through archival research.

研究分野：人文学

キーワード：冷戦 文化 文化政策 アメリカ文学 アーカイブ理論 ミドルブラウ文化 グローバル冷戦

1. 研究開始当初の背景

環大西洋に加え環太平洋という歴史空間が米国という「帝国」の地政学とともに着目されている現在、冷戦の文学を含めた文化研究には、軍事・経済と不可分な地政学的視点を連動させた考察が不可欠である。本研究は、グローバル冷戦という視座より冷戦期文学・文化研究を米ソの二極対立の議論から解き放つ必要性を背景に構想された。

2. 研究の目的

本研究は、第二次世界大戦後のアメリカ文学を、冷戦期における米国主導のグローバルな文化外交政策との関連の中に据え、環太平洋・環大西洋・その他地域を相互に横断する地政学的な文脈において学際的かつ国際的に再考察することを目的としている。本研究の主要な課題は以下の3点である。①「アメリカ文学」と米国の「文化政策」の動態的相互形成に関するグローバルな研究の構築：従来のように二国間のモダニズム文学・文化の交流を重点的に論じるのではなく、むしろより広範な文学と文化政策の連関が軍事・政治・経済というトランスナショナルな連続体を支える情動の体制を作ったという視点に立ち、さらにミドルブラウ文学・文化の情動・感情的効果を重視し、その流通と受容を支えた冷戦期文化政策をグローバルな知的運動として捉え直す。②グローバル経済下における文化政策研究の学際的理論構築：従来のアーカイブ調査手法および理論を批判的に再検討することで、軍事・資本・統治を支える文化政策およびその関係者の資料を事実と情動面からも解読する可能性を開く。③後進の研究者が利用可能な一次資料の調査、ならびにその成果の公開と英語による論集の刊行。

3. 研究の方法

作品分析を中心とした個別具体的な研究、実証的な資料調査研究、批判的アーカイブ理論を含めた理論構築を研究の柱とする。具体的には国内外アーカイブ調査、文化政策関係者への聞き取り調査、作品分析を含めた個別の文献研究を基礎に据えながら、批判的アーカイブ理論を検討し、国際シンポジウム、資料収集、英語論集発表等を行う。国際的な研究者ネットワークを駆使した共同研究として、冷戦文化研究の最前線を担う国内外の研究協力者の協力を得ながら実施する。

4. 研究成果

本研究は、全体としての研究集会の開催のほかに、個人のテーマも分担している。2019年度末に予定されていた総合的な国際研究集会が COVID-19 感染拡大のために開催できず、続く 2020年度も COVID-19 の影響を受けたが、全体としては制約のなかで工夫しながら調査は研究集会を行って一定の成果を挙げることができ、また今後へのあらたなテーマを発見することもできた。

研究集会としては、初年度に開催できなかった分は、その後テーマごとに複数回のオンラインによる国際研究会議を開催し、人的ネットワークと知見を深めることができた。具体的には海外研究協力者の Christina Klein, Hansang Kim らを招いての”Forum on Screen Media in cold War Asia” (2020年8月12日)、Michael Bourdaghs らを招いての “Online Forum on Popular Music in Cold War Japan” (2020年11月13日)、海外研究協力者 George Blaustein, Harilaos Stecopoulos, Greg Barnhisel

を招いての“Global Cold War Culture: an Online International Forum”(2021年3月13日)、Conchitina Cruz, Yi-hung Liu, Harilaos Stecopulos, Kate Baldwinら招いての“Online Forum on the Cultural Cold War: Roundtable on the Politics of Creative Writing /American Studies in the Cold War”(2022年3月6日)、アーカイブの課題に関するオンライン集会「女性ライブラリアンの歴史に光を当てる——課題と展望」(2022年3月6日)、研究協力者 Greg Barnhiselを基調講演者に据えた2023年度の国際研究フォーラム「冷戦・アメリカ研究・九州」(2024年3月9日北九州市立文学館、九州アメリカ文学会と共催)、「Print Culture and Cultural Diplomacy in Cold War East Asia」(2024年3月11日、専修大学神田キャンパス)を開催したほか、英語による論集の企画を開始した。

本課題に関与するメンバーの個人的な分担部分については、本研究の大きな枠としての、「アメリカ文学」と米国の「文化政策」の動態的相互形成、ならびにグローバル経済下における文化政策研究の学際的理論構築を視野に入れながら、それぞれの課題を進めた。

越智(研究代表者)は、この間の各種研究集会の計画、立案、および差配を、吉原とともに執り行いつつ、翻訳や人的交流という点から冷戦の文化政策の考察を続け、とりわけ William Faulknerの来日の意義とアメリカ文学の関係、女性の文化人のエージェンシーについて、考察し、相田洋明編著『ウィリアム・フォークナーの日本訪問』(松嶺社、2022)に「フォークナー来日と日本におけるアメリカ文学の制度化」という章を寄せたほか、2022年6月にL.M. Montgomery学会(U of Prince Edward Island, Canada)にて、村岡花子と民主主義について発表、また2023年1月サンフランシスコにて開催されたModern Language Associationにて研究協力者のGreg Barnhiselおよび研究分担者の吉原と“Strange Careers of Cold Warriors: Agency of Literary Figures”と題したパネルを組み、それぞれに、環太平洋、環大西洋を跨った文学的な人物たちのエージェンシーを問う発表を行った。また、女性文化人については、調査途中で、本研究課題でもあるアーカイブとジェンダーの課題がとりわけ大きかったために、挑戦的研究(萌芽)の課題(23K17508)として今後の理論構築を見据えた研究として切り分けて、さらなる考察とアーカイブ読解の実践に挑んでいる。

吉原は、国際研究会議の運営を越智とともに担ったほか、個人の課題としては、グローバル冷戦下の米文学・文化研究の、東アジア・東南アジア(日本、占領下奄美沖縄、韓国、台湾、フィリピン、インドネシアなど)における展開について基礎的検討を行った。従来、当該地域の米文学・文化研究は、個別に研究されることはあっても、各国家間の相互関係・相互変容のプロセスについては十分に検討されることが少なかったが、本研究により、米文化冷戦のインターアジア/トランス・アジアな展開研究の基礎を築くことができた。スクリーンメディア、ポピュラー音楽、グラフィック・ノベルなどの大衆的文化と、米文学などの高級文化とのトランス・メディア/インターメディアな相互関係を探った。L. M. Montgomery学会(U of Prince Edward Island, Canada)にて、日本の影響で東アジアでも人気の高い、*Anne of Green Gables*(『赤毛のアン』)をグラフィックな形式に翻案した東アジア発の作品につき展示を行ない、グローバル冷戦下の米文学・文化が、主に女性や若年層むけのポピュラー・カルチャーに接続されたときに働いていたジェンダーや教育の力学を考察した。また、米国主導のグローバルな文化外交政策と、アメリカ合衆国広報文化交流局のもと日本各地に作られたアメリカン・センターにおける図書館行政の関係を整理するため、島尾敏雄(奄美アメリカン・センターを受け継いだ奄美図書館館長)関係資料の調査整理を行った。島尾と日本文学研究者エドワード・サイデンステッカーとの協働関係を

資料に基づき調査、グローバル冷戦下の米文学・文化研究と、日本文学研究との相互関係を明らかにした。さらには、東アジアにおける最初のアメリカ研究セミナーである、スタンフォード大学・東京大学 アメリカン・スタディーズ・セミナーが、韓国、台湾、フィリピンなどにおけるアメリカ研究セミナーの原型となったことを、一次資料に基づき立証した。アジア地域における最古のアメリカ研究団体のひとつである九州アメリカ文学会など、アジア地域における米文学・文化研究教育組織に関する基礎調査を行った。文化自由会議やアジア財団のアジアにおける活動に注目して、それらの相互変容プロセスを立証するための資料整理を行なった。

井上は、Hong Kong University Press から論文集 *Beyond Imperial Aesthetics: Theories of Art and Politics in East Asia* を刊行した。Naoki Sakai, Jon Solomon, Akira Mizuta Lippit, Rey Chow, Yuriko Furuhashi など批判的東アジア研究の理論的論者の論考 12 篇を収録した本共編著にて帝國的編成 (imperial formation) の構成要素としてのアメリカと東アジアのネーション形態(nation-form)に とっての脱構築的契機としての美的フォーム(aesthetic form)の可能性を前景化した。また本書の成果を問う国際パネルを AAS のパネル実施、および UC Berkeley, Center for Japanese Studies で の招聘シンポジウムにて開催した。また戦後沖縄を代表するシュルレアリスト詩人清田政信に ついてのシンポジウムを那覇市にて開催した。2021 年度は、香港で激化する民衆運動がナショ ナル化し自閉する傾向に介入するために編まれた雑誌特集号(Journal of Contemporary Chinese Art, vol. 8, no. 1, Special Issue on "Bordering Hong Kong")に美学理論において近年注目を浴びる装 飾、付加物、つまりカント美学における「パレルガ」の位相からネーション形態を脱構築し、さらには移民的社会性を肯定する代補的な芸術フォームをめぐって Jon Solmon 氏、Lu Pan 氏と の共著論考を招聘のもと執筆した。2022 年度には、英語圏のアメリカ詩研究者 30 余名が招聘 執筆をした入門書 *A Companion to American Poetry*(Wiley-Blackwell)にテレサ・ハッキオン・チャ がアメリカ詩のフォームおよび政治的想像力にもたらした、各地のネーション表象から逃れる 類の「トランス-ナショナル」な美的フォームについての影響力をまとめた論文を執筆した。同 時にチャの映画詩学とそれにおける環太平洋を横断する無為の共同体的な、非ナショナルな 脱植民地的構想力について、サンフランシスコ州立大学映画研究科にて招聘講演を行った。 2023 年度においては、パックス・アメリカナと呼ばれる、戦後環太平洋地域におけるアメリ カ覇権とその構成要素としての東アジアのネーション形態を内破しうるメディウムとしての写 真の可能性について、Routledge 社刊行の論文集に招聘論文を執筆し、新左翼に同伴した写真 家でもある中平卓馬におけるナイーブな第三世界ナショナリズム礼賛の問題性と、その兆候と しての中平の沖縄へのオリエンタリズム的視点の問題を批判した。また「アメリカのアジア (America's Asia)」という帝國的構想力から溢出する共同性を想像するあり方について International Consortium of Critical Theory Programs の招聘のもとソウル、慶熙大学にて講演を行 った。またポストコロニアル・フェミニズムの理論家であり映画作家でもあるトリン・T・ミ ンハ氏を那覇に招聘してポストナショナルな記憶を映画と写真において媒介する可能性に関す るシンポジウムを開催した。フィリピン・アテネオ大学にて Asia Theories Network の招聘のも と、米軍占領下沖縄にてオルフェウスの詩学が沖縄戦と米軍占領という二重の支配における 死者たちとの邂逅をいかに可能としたかをめぐる発表を行った。またコレオグラファー、橋本 ロマンズ氏の招聘のもと、植民地主義を内在的に批判しうる芸術の可能性に関する講演を東京 で行った。また UC サンディエゴとトロント大学にて、1945 年以降の沖縄の芸術表現がいわゆる

る沖縄民族主義の主体化 = 従属化的な限界を脱構築する外部性を示唆しうる可能性について招聘講演を行った。

有光は、2019 年度においては、「21 世紀アフリカ系アメリカ文学と「人種」の再定義——*The Fire This Time* が可視化する「黒さ」の多様性と差別の現在」と題して、日本アメリカ学会の年次大会で口頭発表を行った。また、黒人研究学会の年次大会では、「キャサリン・ダナムと土方巽：トランス・パシフィックな「黒さ」の移動と変容」という題で、キャサリン・ダナムの訪日公演が日本のアヴァンギャルド文化、特に舞踏に与えた影響について論じた。さらに、「‘Minor Dances’ Gone Global (but Domesticated)?: Deterritorializing/Reterritorializing Iterations of Butoh, Voguing, and Breaking」という題で、舞踏やヴォーギング、プレイキングのグローバル化について国際シンポジウムで発表した。出版物としては、トニ・モリスンの追悼論文を執筆し、『ユリイカ』に掲載した。2020 年度は、Black Lives Matter の文化・社会・思想的背景について「今度は火だ：多様化する『黒さ』と BLM 時代のアフリカ系アメリカ文学」という題で、『現代思想』に論文を発表した。2021 年度は、1957 年にアフリカ系アメリカ人作家 Ralph Ellison が訪日した際の意義について調査し、Raphaël Lambert との共著で論文を発表した。また、韓国アメリカ学会の年次大会で「Translating Blackness: Quadrangulated Imaginings of Race and Ethnicity in the Pacific-Rim」と題して発表した。さらに、日本アメリカ文学会東京支部のシンポジウムで「国民文学時代の終焉 アメリカ文学の(再)世界化、世界の脱アメリカ化から考える」を企画し、個人発表もした。2022 年度は、Duke Kunshan 大学の招聘で「Translating Blackness—A Brief History of African American Literature in Post-WWII Japan」と題した口頭発表を行い、アメリカ学会 (the ASA) の年次大会で「Worlding of Blackness: A Global Dialogue」というトークショッップを共同企画した。また、前年の発表を加筆・修正し、『アメリカ文学』に論文を発表した。2023 年度は、冷戦文化と関連分野の文献収集と読み込みを行い、神戸やアイオワでアーカイブ調査を実施した。ジョン・F・ケネディと冷戦期アメリカ文学の関係を論じた論文を発表し、アメリカ学会で Bernardo Alexander Attias 氏、黒人研究学会で Garcia Chambers の発表の司会とレスポンドントを務め、冷戦期の黒人文化のグローバルな受容や再生産について意見交換を行なった。2024 年度は、国際シンポジウムで「‘Who knows but that on the lower frequencies I speak for you? —ラルフ・エリソンの訪日と冷戦期の日本におけるアフリカ系アメリカ文学のオルタナティブな古典の誕生」と題した発表を行い、参加者と今後のグローバル冷戦文化研究の方向性について意見交換を行った。

総じて、それぞれの課題を、当初の COVID-19 の影響はありながらも無事にこなすことができ、またその間に浮かび上がった次なる課題に取り組んでいる。特筆すべきは、全員が個人の課題と取り組みながら、それぞれに人脈を拡げ、そしてその拡げた人脈を生かしながら次に取り組むべき課題を発展的なプロジェクトとして見出し、今後に繋げることができた点である。また、オンライン、対面、双方の国際研究会を、すでに一定の成果を持って国際的にも知られた研究者と、日本の若手と言える研究者を引き合わせる場として機能させることが出来たことも、本研究が為し得たことのひとつと自負している。COVID-19 の影響で、繰越など会計が煩瑣になる中で、またとりわけ最終年度には招聘した学者が直前のドクターストップで来日できなくなり、代読という形で参加することになった折りにも、終始一貫して見守ってくださった、専修大学学長室学務課のご担当者の方々、ならびに日本学術振興会には、ややもすれば目立たない、地道な資料研究を中心にした研究計画実施の後押しをしていただいたことを、一同、心から感謝している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Ochi, Hiromi	4. 巻 0
2. 論文標題 “Translations of American Cultural Politics into the Context of Post-War Japan.”	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Keio American Studies	6. 最初と最後の頁 154-163
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 有光道生	4. 巻 80
2. 論文標題 「世界文学」としてのアフリカ系アメリカ文学：大陸中心主義と群島のアフリカ系アメリカ文学研究試論	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本アメリカ文学会東京支部会報	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Inoue, Mayumo	4. 巻 8 (1)
2. 論文標題 "The Ornament and Other Stateless 'Foreigners': A Dialogue on a Poetics of Unbordering"	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Contemporary Chinese Art	6. 最初と最後の頁 87-96
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Inoue, Mayumo	4. 巻 -
2. 論文標題 "'Audience Distant Relative': Fugitive Transnationality and Poetic Form"	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 A Companion to American Poetry (Blackwell Companions to Literature and Culture)	6. 最初と最後の頁 224-239
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計24件（うち招待講演 11件 / うち国際学会 23件）

1. 発表者名 Ochi, Hiromi
2. 発表標題 Translations of American Cultural Politics into the Context of Post War Japan
3. 学会等名 慶應義塾大学アメリカ学会主催第一回国際シンポジウム環太平洋,環大西洋,環文学史 脱アメリカ的アメリカ研究の到来（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ochi, Hiromi
2. 発表標題 Apolitical Cultural Diplomacy That Catered to Emerging Creative Writing/Writers in Postwar Japan
3. 学会等名 Transpacific Creative Writing Pedagogy Symposium（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Ochi, Hiromi
2. 発表標題 Little Magazines and Creative Writing as Engines of Cold War Cultural Diplomacy
3. 学会等名 American Studies Association 2021（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Ochi, Hiromi
2. 発表標題 Faulkner at Nagano as a Media Event
3. 学会等名 Raymond Williams in Japan（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Ochi, Hiromi
2. 発表標題 Faulkner, Japan, and the Cold War Consensus on the US Literary Canon
3. 学会等名 Faulkner, Japan, and Cold War (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Ochi, Hiromi
2. 発表標題 Creative Writing and Little Magazines
3. 学会等名 Online Forum on the Cultural Cold War: Roundtable on the Politics of Creative Writing and American Studies in the Cold War (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Ochi, Hiromi
2. 発表標題 "Re-visioning Democracy in Anne: Translator Hanako Muraoka in Cold War Cultural Politics."
3. 学会等名 L.M. Montgomery and Re-Vision, 15th Biennial Conference L.M. Montgomery Institute (June 25, 2022, University of Prince Edward Island, Canada) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Ochi, Hiromi
2. 発表標題 " ' Parchman as past, present, and future all at once? ' : Race Violence as an Interminable System in Sing, Unburied, Sing.
3. 学会等名 Faulkner and ward Conference (国際学会)
4. 発表年 2022年

1 . 発表者名 Ochi, Hiromi
2 . 発表標題 “ C. Vann Woodward and Southern Studies in American Studies ”
3 . 学会等名 MLA2023 (Modern Language Association Annual Conference) (Jan. 7, 2023, San Francisco Marriott) (国際学会)
4 . 発表年 2023年

1 . 発表者名 Yoshihara, Yukari
2 . 発表標題 “ Wallace Stegner Goes to Asia: Creative Writing and Its Asian Mission. ”
3 . 学会等名 MLA2023 (Modern Language Association Annual Conference) (Jan. 7, 2023, San Francisco Marriott) (国際学会)
4 . 発表年 2023年

1 . 発表者名 Inoue, Mayumo
2 . 発表標題 “ Theresa Hak Kyung Cha's Cine-poetic Apparatus”
3 . 学会等名 San Francisco University, School of Cinema (国際学会)
4 . 発表年 2022年

1 . 発表者名 Arimitsu, Michio
2 . 発表標題 "International Committee Talkshop: Worlding of Blackness: A Global Dialogue"
3 . 学会等名 American Studies Association, Annual Meeting (New Orleans, US) , 2022.11 (国際学会)
4 . 発表年 2022年

1. 発表者名 Arimitsu, Michio
2. 発表標題 "Who knows but that, on the lower frequencies, I speak for you?" -ラルフ・エリソンの訪日と冷戦期の日本におけるアフリカ形アメリカ文学のオルタナティブな古典の誕生
3. 学会等名 Print Culture and Cultural Diplomacy (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Ochi, Hiromi
2. 発表標題 日米関係の新しい姿-Encounterにおける病んだ女と死んだ女
3. 学会等名 Print Culture and Cultural Diplomacy in Cold War East Asia (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Inoue, Mayumo
2. 発表標題 Theresa Hak Kyung Cha's Apparatus of the Aformal
3. 学会等名 American Comparative Literature Association Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Inoue, Mayumo
2. 発表標題 "How Are We to Reimagine the University Now?"
3. 学会等名 Asia Theories Network Workshop on the University : Colonial/Modern, Global/Neoliberal, Digital/Transversal (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Inoue, Mayumo
2. 発表標題 Poetics of the Common and the Imperial Poiesis of the Nations in America's Asia
3. 学会等名 International Consortium of Critical Theory Programs (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Inoue, Mayumo
2. 発表標題 Living Otherwise: A De-imperial Mode of Aesthetics
3. 学会等名 Living Otherwise: Perspectives on Time, Space and Sense-Making from Okinawa (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Inoue, Mayumo
2. 発表標題 The Orphic Undercommons and the University under Military Occupation-Asia Theories Network Workshop on the Univerisytp; Colonial/Modern, Global/Neoliberal, Digital.Transversal
3. 学会等名 Ateneo de Manila University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 井上間從文
2. 発表標題 植民地主義を越える複数の道-アートと政治の諸理論
3. 学会等名 セゾン文化財団森下スタジオ (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Ochi, Hiromi
2. 発表標題 The Uses of Faulkner: a modernist and a Southerner
3. 学会等名 Uses of Modernism (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 吉原ゆかり
2. 発表標題 冷戦、炭鉱、米文学
3. 学会等名 国際フォーラム 冷戦・アメリカ研究・九州 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Ochi, Hiromi
2. 発表標題 Representing Japanese Alliance in a Magazine-Encounter and Japanese literature through Translation
3. 学会等名 Space of Translation Final Conference, Translation in European Periodical Cultures, 1945-65 (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Yoshihara, Yukari
2. 発表標題 Translation as a Site of Cultural Cold Weapoin Encounter and Europe in Jiyu
3. 学会等名 Space of Translation Final Conference, Translation in European Periodical Cultures, 1945-65 (国際学会)
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計10件

1. 著者名 Inoue, Mayumo	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Temple University Press	5. 総ページ数 162
3. 書名 The Subject(s) of Human Rights Crises, Violations, and Asian/American Critique (Chapter執筆)	

1. 著者名 Hiromi Ochi	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 400
3. 書名 Routledge Companion to Transnational American Studies edited by Nina Morgan, Alfred Hornung and Takayuki Tatsumi, (Chapter執筆)	

1. 著者名 Inoue, Mayumo and Steve Choe, eds.	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Hong Kong University Press	5. 総ページ数 298
3. 書名 Beyond Imperial Aesthetics: Theories of Art and Politics in East Asia	

1. 著者名 相田 洋明、梅垣 昌子、山本 裕子、山根 亮一、森 有礼、越智 博美、松原 陽子、金澤 哲	4. 発行年 2022年
2. 出版社 松籟社	5. 総ページ数 240
3. 書名 ウィリアム・フォークナーの日本訪問	

1. 著者名 Hiromi Ochi	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 340
3. 書名 Asian English (Chapter執筆)	

1. 著者名 Yoshihara, Yukari, Chilton, Miles, et. al.	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 340
3. 書名 Asian English	

1. 著者名 巽孝之、下河辺美知子、越智博美、後藤和彦、原田範行編著	4. 発行年 2021年
2. 出版社 小鳥遊書房	5. 総ページ数 545
3. 書名 脱領域・脱構築・脱阪急；二一世紀人文学のために	

1. 著者名 Inoue, Mayumo and Kaori Nakasone	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Taylor and Francis Group	5. 総ページ数 272
3. 書名 Knowledge Production and Epistemic Decolonization at the End of Pax Americana(Chapter執筆)	

1. 著者名 有光道生	4. 発行年 2023年
2. 出版社 南雲堂	5. 総ページ数 540
3. 書名 アメリカ文学と大統領（JFケネディ章執筆）	

1. 著者名 越智博美、齊藤一、橋本恭子、吉原ゆかり、渡辺直紀編著	4. 発行年 2024年
2. 出版社 筑波大学出版会	5. 総ページ数 478
3. 書名 東アジア冷戦文化の系譜学 1945年を跨境して	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	有光 道生 (Arimitsu Michio) (30715024)	慶應義塾大学・法学部（日吉）・准教授 (32612)	
研究分担者	井上 間従文 (Inoue Mayumo) (50511630)	一橋大学・大学院言語社会研究科・准教授 (12613)	
研究分担者	吉原 ゆかり (Yoshihara Yukari) (70249621)	筑波大学・人文社会系・教授 (12102)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計7件

国際研究集会 Forum on Screen Media in Cold War Asia	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 Online Forum on Popular Songs in Cold War Japan	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 Global Cold War Culture: An Online International Forum	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 Print Culture and Cultural Diplomacy in Cold War East Asia	開催年 2024年～2024年
国際研究集会 Cold War Modernism and Its Print Culture2024	開催年 2024年～2024年
国際研究集会 冷戦・アメリカ研究・九州	開催年 2024年～2024年
国際研究集会 女性ライブラリアンの歴史に光を当てる-課題と展望	開催年 2022年～2022年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------